

## 平成 30 年度 第 2 回地域医療支援病院に関する委員会

開催日時	平成 30 年 10 月 3 日(水) 13 時 30 分から 14 時 10 分まで	
開催場所	大垣市民病院 2 病棟 1 階 会議室	
議題	定例報告及び紹介率向上への取組みについて	
出席委員 (敬称略)	委員長	大垣市医師会会長 山川 隆司
	委員	大垣歯科医師会副会長 片野 雅文
	委員	大垣歯科医師会副会長 萩下 雅仁
	委員	大垣薬剤師会会長 松本 正平
	委員	大垣女子短期大学看護学科教授 馬場 貞子
	委員	西濃保健所長 鷹尾 明
公開区分	公開	
傍聴人	なし	
審議概要	<p><b>1. 報告事項</b></p> <p><b>1) 定例報告事項</b></p> <p>(1) よろず相談・地域連携課から、①紹介率・逆紹介率、②地域連携を介した診察・検査件数、③開放型病床利用状況、④救急統計、⑤地域の医療従事者に対する研修・講演会の開催状況、⑥地域連携クリニカルパス登録状況、⑦OMNet 利用状況について報告した。</p> <p>①紹介率……30 年 4 月～8 月 : 67.6%</p> <p>逆紹介率…30 年 4 月～8 月: 119.8%</p> <p>②紹介予約診案件数…30 年 4 月～8 月計: 5,443 件</p> <p>紹介予約検査件数…30 年 4 月～8 月計: 538 件</p> <p>③開放型病床登録医数…30 年 9 月末: 160 人(医科 131 人、歯科 29 人)、利用率…30 年 4 月～9 月: 27.6%</p> <p>④救急受診患者数…30 年 4 月～8 月計: 16,643 人(月平均 3,329 人)</p> <p>救急車利用件数…30 年 4 月～8 月計: 4,508 件(月平均 902 件)</p> <p>救急入院患者数…30 年 4 月～8 月計: 1,288 件(月平均 258 件)</p> <p>⑤地域医療従事者等に対する研修会・講演会</p> <p>地域医療従事者研修会</p> <p>30 年 4 月～8 月開催数: 10 回、院外受講者数 116 人</p> <p>※病診連携カンファレンス、糖尿病コメディカル研修会、がん診療委員会 等市民対象の講演会等</p> <p>30 年 4 月～8 月開催数: 5 回、院外受講者数 154 人</p> <p>※糖尿病公開講演会、成人気管支喘息教室、がんの市民公開講座 等</p> <p>⑥地域連携クリニカルパス登録状況…30 年 4 月～8 月登録総数 394 件</p>	

30年8月末時点におけるパス開始からの登録総数:7,869件

⑦OMNet利用状況…30年8月末時点 利用登録者数:147人

利用同意患者総数:19,029人

**(2)上記の報告について次のとおり質疑応答等が行われた。**

(委員)開放型病床に小児科を作っていたいたが、利用は少ないか。

(事務局)前年度、前々年度とともに利用は多くない。

(委員)脱水など何かあればということで小児科を作っていたいたが、中々適応が無くて、救急へ行くとそちらから入院となる。開放型病床の使い方というのがちょっと難しいのかも知れない。

(委員)市民を対象とした講演会等はどういう日時で設定されているのか。市民が参加しやすい時間帯になっているか、土日に開催する予定は有るか、どのように広報しているか。せっかく講師の方が来ていただいているのに受講者が少ないので寂しいので、市民が参加しやすいように考えているか。

(事務局)市民公開講座について、がんの市民公開講座の場合は土曜日の午後開催で市民の方が参加できる。基本的にはそのような対応になっている。

(事務局)他は平日の4時くらい。自分もたまに参加するが、患者さん或いはご家族の方がみえて、まあまあの人数がみえていると思う。

(事務局)今度10月21日の日曜日に昼の11時から大垣城ホールでお話をさせていただくが、それは広報に出ている。

(委員)特に糖尿病関係だと入院患者さんや家族の方がみえたりということで、夕方4時ごろなら入院患者さんも良いかも知れないし、外来にみえる方も今日有るならということでみえると思うので、話をする方は勤務交代によってやはり土曜日が良いのかなと思ったりしているが、せっかくやっていただいているのでたくさんの受講者になると良いと思う。活動がよく目に見える方が良い。

**2)紹介率向上への取り組みについて**

**(1)よろず相談・地域連携課から、紹介率向上への取り組み状況について次のとおり報告した。**

①8月までの患者さんからの電話予約件数は384件で、前年度同期間は341件だったので43件、12.6%の増加となった。耳鼻科が16件、産婦人科が14件、形成外科が11件、眼科が10件増加した。地域別では大垣市の医療機関が8割を占め、診療科別では、歯科口腔外科が4割を占めた。

②かかりつけ医紹介センターの相談は、大垣市内へのかかりつけ紹介が63.5%と多く、次に揖斐郡9.6%となった。診療科別としては循環器内科が25%、眼科が21.1%の順であった。

**(2)委員から、上記の報告については意見・質問は無かった。**

## 2. その他検討事項等

(委員)市民病院に紹介した患者さんで返事が戻らない例がよくあって、病診連携室へ連絡するとずいぶん経ってから連絡があるが、返書に関するシステムを市民病院の中で構築していないのか。

(事務局)救急に関しては特に抜ける確率が高くなる。救急にかかったときに紹介状を持っていて、それから主科が決まってそちらの方に入院すると、最初に紹介状を持参で救急に来た時の紹介元の先生にその後の経過を返事し忘れるという可能性が有った。そこについては救急に紹介状を持ってきた場合は医療クラークがチェックするというシステムを探ったので、その部分は少し解消されると思う。

(委員長)市民病院へ送った患者で転院先病院へは書いてあるのだけれど、紹介元のうちへは書いてない。こちらは未決のままカルテが残っている。病院として、どこから紹介された時に返事をきちんと書かないと退院の時にアラームが鳴るとか、できないか。

(事務局)医療クラークが 20 人を超えて人数が増えてきたので、外科を始めとして医療クラークがチェックするようにしたい。これから順繰りに医療クラークが紹介状の返事が書いてあるかどうかを、救急とは別に各診療科ができるように整備していくところなので、もうしばらくお待ちいただきたい。各先生に追及しても、年次が替わると人が代わって元に戻るので、医療クラークにしっかりとやっていただく。

(委員)よろしくお願ひしたい。

(事務局)当院の今後の話として PFM にデータセンターという、新患で來た患者さんの CD-ROM、紹介状、持参薬などを処理できる部署を総合受付の裏に作る予定をしている。そこを通じて全てのデータを電子カルテの中に早く収めて、その後で診療科へ回っていくという順番になる。ただし、持参薬については電子カルテの中に正確に入れるには機械的にできず、手入力でやらなければいけない。そうすると薬剤師の常駐が必要になるし、人数も必要になってくる。遅滞なく患者を診療するため、地域連携でご紹介いただける時には持参薬の情報を予め外来にかかる前に教えていただけと、あらかじめ電子カルテに入力できて、多少スムーズになるかと思うがいかがか。

(委員)そうすべきとは思う。

(事務局)その場合は持参薬のお薬手帳を FAX で送っていただきたい。

(委員)お薬手帳も電子お薬手帳というのが有って、調剤薬局だと QR コードに電子お薬手帳のデータが置いてあるものを領収書と一緒に渡すことができる。

(事務局)全部デジタル化されると。それは良い。

(委員)まだ、使っている人は少ないが、新しい電子薬歴を持っているところはだいたい有るので、それが進行していくと早くなる。

(委員)紹介状の一番下に処方を全部書くというルールになっているのでは。

	<p>(事務局)抜けていたりするし、いろんな医療機関にかかっている方が段々増えていくので、漏れなくというのは中々難しい。</p> <p>(委員)一本化していろいろ入っていると何か分かりにくい。一度、医師会の方でもそういう方向に向かうように、提案をしてみたい。</p> <p>(委員)改革評価プラン委員会の時にお話ししたが、10月に入って生活保護法の改正が施行されたが、今までの「可能な限り後発医薬品」から「原則として後発医薬品」となった。対策をとしてはどのようにになっているか。</p> <p>(事務局)生活保護の法律が10月から変わるということで、市役所の関連部署の方から、生活保護の患者さん宛てに文書が行くと聞いている。病院としては来院時に電子カルテに生活保護の患者さんかどうか分かるようなシステムで、基本的には院外処方箋でお薬を貰っていただくという方向で考えている。</p> <p>また、当院では一包化調剤をなるべく減らす方向にしており、一包化を希望する患者さんで診察の時に特に機能障害が無いとか高齢でない場合、院外で一包化に対応してもらえる薬局で貰ってください、と先生から伝えていただいている。</p> <p>(事務局)院外は基本一包化と考えてよいか。</p> <p>(委員)処方箋に一包化と書いていただければ。</p> <p>(事務局)一包化と希望しておけば一包化をやっていただけだと。</p> <p>(委員)日数によっては一包化加算をもらえる。市民病院内では付かないものが院外では付いている。</p> <p>(委員)麻疹については。医師会はどうするか協議をしているが。</p> <p>(委員)開業医ではしかかも知れないと言われた患者さんが市民病院へみえた時に、一般の患者さんと一緒に動いていたということで、今、患者数200人くらいを保健所で健康調査している。そういう情報と言うのは開業医さんと病院に、ある程度理解のうえで対応していただけだと。</p> <p>(委員)医師会でもはしかかも知れないという眼を持って診ましょう、というように連絡をしている。</p> <p>(事務局)当院では、はしか疑いの場合は救急の受付から中に入らずに、外を周つて救急車の出入口から中に入っていただけで、他の人と接触しないように外来の一番端の診察室で診るというようにした。</p>
次回開催	平成30年度第2回は平成31年1月9日に開催予定とする。